企画振興部広報県民課

「県政タウンミーティング」会議録

テーマ　　「地域で若者がどういう役割を果たせるか、学生自身のこれからの夢について」

日　時　　令和元年12月18日（水）13:00～15:00

場　所　　公立大学法人　長野県立大学　三輪キャンパス（長野市）

目　次

1　開会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ１
2　知事あいさつ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ２
3　金田一学長あいさつ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ４
4　ディスカッション　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ５
5　知事総括コメント　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ30
6　閉会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ33

【参加者　41人】

１　開会

【高等教育振興課　企画幹兼課長補佐　新井隆司】

それでは定刻になりましたので、ただいまから県政タウンミーティングを開催いたします。本日の司会を務めます、長野県庁高等教育振興課の新井隆司と申します。よろしくお願いいたします。

本日は長野県の大学生の皆さんの地域での取り組みや将来への夢などについて、知事と参加者の皆様とで意見交換を行っていただきたいと思っております。

それでは最初に、阿部知事からごあいさつ申し上げます。

２　知事あいさつ

【長野県知事　阿部守一】

皆さん、こんにちは。私は長野県知事の阿部守一と申します。よろしくお願いします。

本日は手話通訳に来てもらっています。ぜひ、県立大学の皆さんにも手話に親しんでもらいたいです。長野県は手話言語条例を制定している数少ない県ですので、片言でいいので、手話を覚えていただいて、聴覚に障がいがある人とコミュニケーションをとってもらえると、ありがたいなと思っています。

「ありがとうございました」とか、「拍手はこうする」とか、「こんにちは」とか、簡単に覚えられるので、挨拶と自分の名前ぐらいを言えるようにしてもらえると、多くの聴覚障がいの人たちによかったねと、この様に理解してくれている人もいると思ってもらえるので、冒頭に、お話しさせていただきました。どうぞよろしくお願いします。

今日は県政タウンミーティングということで、県立大学の皆さんには集まってもらいまして、大変ありがとうございます。

県立大学も開学して２年目ということで、いろいろ課題があるものの、軌道に乗りつつあるのかなと思っています。

私はこの大学の設立団体の長として、県立大学が、ぜひ当初、目指していたような形でいい大学になってもらいたいと思っています。

２年生は海外に行ってもらいましたが、全員、海外体験してもらおう、それから１年生は、今、寮に入っていると思いますけれども、１年生は全員寮に入って、きちんと学習する姿勢を身につけてもらおうということを含めて、いろいろ考えてつくった大学です。

皆さんには、この大学を、大いに楽しんでもらい、そして皆さんがそれぞれ実現していきたいことに向けて、しっかりと歩みを進めてもらいたいと思います。

今日は県政タウンミーティングということで、ぜひ若い皆さんといろいろな意見交換をさせてもらいたいと思っています。

本日、皆さんには新しい県の総合計画と、気候非常事態宣言と、ONE NAGANOのチラシを配らせていただいていますが、これからの未来をつくるのは皆さんだと思っています。

これからの長野県も日本も、それから世界も、若い皆さんがどういうことを考えるか、そして、もっといえば、考えるだけでなくて、どう行動するかということで大きく変わっていくものと思っています。

長野県は、気候非常事態宣言、そしてゼロカーボン宣言を出した県なので、これから県民の皆さんにも、あるいは若者の皆さんにも、いろいろな行動を一緒にやりましょうという呼びかけもしていきたいと思っています。できれば、我々行政が呼びかけるのではなくて、皆さんがどんどん、いろいろなことをやってもらいたいと思いますし、むしろ皆さんから強く意見をあげてほしい、「なんだ、長野県はあんな宣言を出したのに、何も動いてないじゃないか」というぐらいのことを強く言って、そして一緒に行動していただければありがたいと思っています。

また、今、長野県の一番大きな課題は、台風第19号災害からの復旧・復興です。今日も事業者の皆さんを応援するための産業復興支援センターを、朝、立ち上げて、いろいろな事業者がこれから再建していく上でのいろいろな相談窓口をつくり、今年は12月30日まで土日もきちんと県の職員は対応します。皆さんの中にもボランティアとして応援いただいている人たちもいらっしゃいますが、この復旧復興は行政だけの力では成し遂げられないと思っています。

今夜、ＮＰＯの皆さんとボランティアの皆さんと、我々行政などが一緒になって復興を考える会議を開く予定です。もちろん行政がやらなければできないことは沢山あります。だけど、行政だけではできないということも山ほどあります。そういう意味で、課題を一緒に出し合って、これからの復旧復興に向けて協力し合い、ＮＰＯの皆さん、ボランティアの皆さん、そして我々行政も一緒になって取り組みましょうという会議を催します。復旧・復興だけではなく、これからの社会をつくっていく上でも、やはり全ての人たちの参加、そして協働というのが極めて重要だと考えています。

世の中、なかなか一人では動かせないような大変な問題がたくさんあります。だけど、そこで諦めたら何も変わりません。日本は幸いなことに民主主義国家だと言われています。憲法には国民主権が謳われていて、皆さんの意見が日本の国のあり方を左右するはずです。でも何となくそうなっていないなという感じがするのは、政治家が悪いのか、国民が悪いのか、仕組みが悪いのか、みんな少しずつ悪いような気がしていますが、やはり誰かのせいにしているだけでは、世の中はよくならないものと思っています。

どうか皆さんには、この県立大学で学びを通じて新たな視点や、新たな知識や、新たなネットワークなど、そういうものをしっかりと身につけてもらい、皆さんの力で皆さんの人生を切り開いていただくと同時に、社会、あるいは地球全体をよりよい形にしていくためにも、貢献をしていってもらいたいと思います。

県立大学の皆さんと対話をさせていただくのが、今回、大学ができてから初めてなので、大変期待をしています。心血を注いでつくった大学、この大学の校舎は立派ですが、

大学がいい大学かどうかは、今日ここにいる皆さん一人一人が何を学んでどう成長してもらうか、これが一番大事だと思っています。

それぞれ、勉強などしっかり精進をしてもらって、そして金田一学長をはじめ、大変すばらしい先生方や、スタッフの皆さんもいらっしゃるので、ぜひそうした皆さんの力を借りながら、学びを深く、そして成長していってもらいたいと思います。

今日、これから発表を聞かせてもらいながら皆さんと意見交換していきたいと思いますので、どうかよろしくお願いいたします。

【進行役：高等教育振興課　企画幹兼課長補佐　新井隆司】

ありがとうございました。続きまして、長野県立大学の金田一学長からごあいさつをお願いしたいと思います。

３　金田一学長あいさつ

【金田一学長】

本日は大変お忙しい中、知事に長野県立大学に来ていただきまして本当にありがとうございます。もっと早く来ていただきたかったのですが、大変忙しくて、いろいろやらなければいけないことがあった中で、今回、県政タウンミーティングを、この三輪キャンパスで開いていただくことができまして、ありがとうございます。

今、知事からお話がありましたとおり、この大学の生みの親は阿部知事であると思います。まさに８年前に、知事がこの４年制大学をつくるという決断をされました。

ぜひそのことは皆さんも覚えておいていただきたいと思っております。

そしてその知事と今日は、この大学の学生たちとすばらしい懇談ができること、意見交換ができることを期待しておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

今、１、２年生しかおりませんけれども、本学の一期生、二期生は、他大学の１年、２年生よりも遥かにしっかりしているということは、私が保証いたします。

１年生は今、全寮制で寮に入っておりますけれども、そこで自分で食事をつくっています。そういった共同生活の中で社会性を身につけております。また、ボランティア活動に取り組むことで、徐々に長野県の素晴らしさを分かってきているという気がしております。

一方、２年生は、この６月から８月にかけ海外へ行ってきました。これも大変素晴らしい体験だったと思います。多感な二十歳前後に海外へ行く、これは何物にも替えがたい宝であると思います。そしてまさに逞しくなって帰ってまいりました。

今日はきっと知事が期待するような発言を、皆さんからしていただけるのではないかと私も期待しております。

皆さん、知事とお話できる機会というのは、一生にそう、一度あるかないかだと私は思っておりますので、ぜひこの機会に皆さんの熱い想いを知事にぶつけていただきたいと思います。それでこそ、このタウンミーティングの意義ではないかと考えております。

本日は、実りのある意見交換ができますことを祈りまして、私からのあいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

4　ディスカッション

【進行役：高等教育振興課　企画幹兼課長補佐　新井隆司】

金田一学長、ありがとうございました。本日は８名の学生の皆さんから取り組みなどを発表いただきまして、知事と意見交換をしていただきたいと思います。

最初に前半は４名の方に発表いただいて、意見交換を挟んで、また後半４名の方に発表いただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、学生の皆さんから発表いただきたいと思います。最初にAさんからお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○　Aさん

こんにちは、はじめまして、Aです。

思ったよりも知事や学長が近くて緊張しています。

私は昨年度のエシカル消費マップ、「ここからエシカルマップ」の作成事業に参加させていただきました。

私の担当は上田地域で、取材のため６回ほど上田に伺いました。私は県外出身ということもあり、善光寺と軽井沢ぐらいしか長野県のことは知らなかったのですが、上田に取材に訪れたことで長野県のこと、長野の地域というものをよく知ることができました。

また、マップ完成後も取材させていただいた農家さんの味噌づくりに呼んでいただいたこと、その取材の時にできた関係性は、私の中で大切なものとなっています。

私の地元ではこのような地域とのつながりを感じる機会が少なかったのでとても貴重な経験になりました。そのきっかけとなったエシカルマップ作成事業に参加させていただき、ありがとうございます。

また、この大学に進学したことによりほかにも貴重な経験をさせていただいています。

私は小学生向けのものづくりのワークショップを企画し、大学から公募型裁量経費を

採択いただきましたが、取り組みの中で、やはり自分でワークショップを主催することがいかに難しいか、どうやって人を集めるかなど、自分で動いてみないとわからないものを感じることができ、とても貴重な経験になりました。

今後とも県立大学生が、若い人たちがその地域のために何かやりたい、こういうことをしていきたいという意見があったときにはご支援いただけるとありがたいです。よろしくお願いいたします。

【進行役：高等教育振興課　企画幹兼課長補佐　新井隆司】

ありがとうございました。続いてBさん、お願いします。

○ Bさん

こんにちは、よろしくお願いいたします。

私は飯山市出身で、高校は中野西高校に通っていました。

私は前に出たり、人前でしゃべるタイプではありませんでしたが、高校１年の12月に担任の先生から「中野市若者会議」というのがあることを教えてもらい、そこに友達と参加しました。

その参加をきっかけに中野市の駅前にカフェをつくろうとか、いろいろなことを提案してきましたが、話だけで結局、何も形にならずに終わってしまいました。

何か形にしたいと思い、取り組んだのが地元の「ションション祭り」において、商工会議所の人たちと協力して、「電球ソーダ」というものを販売させていただきました。

このような活動を通して、この企画に取り組む大変さや、商売することの大変さを実感しましたが、高校生でも頑張ればできるということが大きな発見でした。

また、「中西珈琲倶楽部」というものを立ち上げ、丸山珈琲さんとコラボして、独自のコーヒーブランドを立ち上げました。中野西高校ではフェアトレードチョコという活動を行っており、その流れでフェアトレードのコーヒーという形になりました。

現在は、主に信州大学生が活動している善光寺近くのカフェにおいて、そのコーヒーを販売している状況で、これからの展開を考えているところです。

このような活動から、まず先生から最初のチャンスをいただき、その後継続して自分で行動することで自分の意識が変わっていく、このチャンス、チャレンジ、チェンジの頭文字を取った、３Ｃが自然にできていたと感じています。

チャンスを掴むと経験になり、成功体験があると今度は意識が変わり、自分で次を求めるようになるという、このサイクルがＥＳＤ教育（持続可能な開発のための教育）だ

と思っています。

ほかの人たちを見ていると、どうしても最初の一歩目が踏み出せない人たちが多い、でもその一歩を踏み出すと絶対に意識が変わると思います。だから、最初は先生や友だちの力が必要であり、チャンスを与えるだけでなく、チャンスを掴み易くする、私はこういった仕組みをつくって教育界を変えていきたいと思っています。

中野西高校においてＳＤＧｓが絡んだテーマで教科横断型のコラボ授業というものがあって、異なる教科の先生たちが、一緒に科目をあわせた授業をしており、私自身もすごく楽しかった思い出があります。

それは中野西高校ユネスコスクールというのですが、北信にある３校で生徒が移動したり、先生が移動したりという形のものを組み合わせて、新しい授業ができないかと考えています。またこの取り組みにより異なる分野の学校同士でも新しい価値観が生まれてくる、そんな取り組みをやってみたいと思っています。

まだまだ考えも不十分なところがありますが、これからも頑張っていきたいと思っています。ありがとうございました。

【進行役：高等教育振興課　企画幹兼課長補佐　新井隆司】

Bさん、ありがとうございました。続いて、Cさん、お願いします。

○　Cさん

こんにちは、長野県立大学グローバルマネジメント学部２年のCと申します。

私は同級生二人と３人で、今年８月に長野市の権堂で「古着屋トライアングル」という古着屋を開店させました。

私たちのお店は普通の古着屋と違い、完全にお客様に寄付をしていただいて成り立っている古着屋です。最初は海外から買い付ける古着屋を考えていたのですが、大学のＣＳＩセンター長さんからファストファッションの裏側の映画を見せてもらい、その中で、労働搾取の現状や環境破壊など、とても残酷な現実があることを知って、少しでもその現実を減らすような形として、古着屋ができたらと思うようになりました。

そこで大学で開催されている未来会議や、地域の大人が集まる場に参加して、自分たちの考えを話したところ「仕入れゼロという形で、寄付だけでやってみたらどうでしょうか」との助言をいただき、寄付で商品の仕入れを行う古着屋を開くことになりました。

実際に活動にあたっては、例えば長野市の「やってこ！シンカイ」というお店にインターンとして入らせていただき、たまに服を売らせていただいたり、お店の場所でもい

ろいろな方に助けていただいたり、あと古着を寄付していただくという点でも、地域の方々に協力いただき、長野市の方々の協力なしでは成り立たない形で、古着屋を運営しています。

教授からいろいろなアドバイスをいただいたり、開店準備に大学の裁量経費を活用させていただけたり、いろいろな方々に協力いただきながら、古着屋を開店させることができたと思っています。

仕入れが寄付で成り立っている分、普通の古着屋よりはお手頃な価格で提供でき、地元の高校生や、同年代の学生や、幅広い世代の方々にお店に来てもらっています。

また、古い服の再利用という良い循環となり、今後もいろいろな人を巻き込んで、継続して良い循環が生み出せていけるように、これからも頑張っていこうと思っています。

【進行役：高等教育振興課　企画幹兼課長補佐　新井隆司】

Cさん、ありがとうございました。

続いてDさん、お願いします。

○ Dさん

こんにちは。長野県立大学グローバルマネジメント学部１年、Dと申します。

今日は学生有志団体の「農業振興バトン」という活動と、私の夢について語らせていただきます。

私は東京生まれで飯綱町に引っ越し、育ちました。その後長野商業高校を卒業して長野県立大学に入りました。

私は農業を愛しています。農業は本当に好きで、畑の中で暮らせればいいと思っています。

私が農業を好きな理由として、祖父の影響があります。祖父が一生懸命につくったお米を、私はありがたいことに食べることができていましたが、中学２年生のときに、そんな祖父が末期がんで余命宣告をされました。そこで、祖父から農業を継ぐことを約束しました。その後、高校３年生から飯綱町で無農薬の米づくりを行っています。

今は学生有志団体「農業振興バトン」という団体を立上げました。そのコンセプトは「受け継ぐ」、「加工する」、「農業の力を伝え渡す」というとてもシンプルなものになっています。今は12名の仲間たちがそこに参加しており、全学部横断型の学内で一番巨大化した団体かなと思っていますが、まだまだ課題があるところです。

まず、「受け継ぐ」については、祖父から受け継いだことや、休耕田の活用や、諏訪在

住の83歳の方に遺伝農法を学びに行くなど、いろいろな方々から農業を学んでいるという状況です。長野県の方々には親身になっていろいろなことを教えていただき、本当にありがたいと思います。祖父だけでなく、地域の方々に育ててもらっている状況です。

高校生の時はただ受け継いでいるだけの状態でしたが、今は加工することに一生懸命になっています。農業の厳しさを１年目でとても感じましたし、自分が将来、これを仕事にできるかという不安やプレッシャーも感じました。でもここで諦めたくなくて、みんなで農業をつくる社会、そして社会の中にアグリランナーを増やすという活動をしたいと思い、加工するという要素を加えました。

今、私たちが取り組んでいるのが、個人の経験や技術を農業の世界で提供し、農業の世界から提供する、社会の居場所を農業の中につくろうということです。農業で人々を元気に、そして人々の力で農業を元気にしたい、これが私達のコンセプトになります。

農業をただやるのではなく、自分たちのやりたい軸がありながらも、農業とかけ合わせながら活動しています。

例えば不登校の支援、一見、関係ないところではありますが、農業の世界で自信を取り戻すプロジェクト、プログラムづくりなどに取り組むことになります。

そしてこのコミュニティーのキーになるミーティングにより、いろいろな学生間でこういうことをやってみようよ、どうしたらできるだろうという話合いをすることができています。

今回台風災害の支援として、クリスマスにクッキーとパウンドケーキを150食分用意する取り組みを行っています。

また、地元の飯綱町との対話も大切にしています。

現在のコミュニティーについては、今後、地域に落とし込みたいと思っています。

今はメンバー12人でつくっているコミュニティーが少しずつ広がって50人、そして100人、そして最終的には飯綱町や、地域に落とし込んでいき、最後には長野県に落とし込んでいく、少しずつ和を広げていきたいと思っています。ご静聴ありがとうございました。

【進行役：高等教育振興課　企画幹兼課長補佐　新井隆司】

４名の学生の皆さん、ありがとうございました。

ここで意見交換の時間を10分から15分ほど取りたいと思います。知事から質問などがありましたらお願いいたします。

【長野県知事　阿部守一】

４人の皆さんに発表していただきありがとうございました。

若い人たちが大勢いるので、私は何か、若い人たちと一緒にどういう社会にしていきたいかということを考えたいと思います。

皆さんの発表の中でもそれぞれ少しずつ、滲み出ていた感じがあって、私の問題意識の観点から少し意見交換したいと思います。

Aさんは、エシカルマップ作成に参加いただき、それが長野県のことや、地域のことなどを知るきっかけになったというお話がありましたが、エシカル消費や、私が勝手に言っている、エシカルな生産などの取り組みを長野として広めていきたいと思っていまして、実際、このマップをつくり、エシカル消費を広めていく上で、どうすればいいでしょうか。こんなやり方ではだめだなど、何か、気がついたことはありますか。

○　Aさん

文句みたいで申しわけないのですが、作成したマップの部数が3,000部と聞きましたが、長野県民に対して3,000部はちょっと少ないのではないかと思います。

興味のある人はインターネットで検索すれば出てくると思いますが、興味がない人に知ってもらうというのに、3,000部では少ないのではないかと思います。

【長野県知事　阿部守一】

それはいい指摘、それはどうやってコストを下げるかということも一緒に考えなければいけません。どうすれば低コストで多くの人たちに知ってもらえるでしょうか。

若者はＳＮＳを使って知ってもらうことがいいと私は思っていますが、ＳＮＳが使えない人たちにどう伝えるかなど、何かいろいろ工夫の余地はあるだろうと思います。

ただの啓発パンフレットは減らしたらどうかと、いろいろな部局に言っているのですが、皆さんに配ったこの総合計画のパンフレットも、パンフレットを配るよりも、ここのホームページを見てくださいといったほうが安上がりでよかったかなと、思っています。

そういうことも一緒に提案して考えてもらえるとありがたいです。そもそもこんなに紙を使用すること事態が、私はエシカルじゃないと思っています。

○　Aさん

　そうですね、別の記事ですが、一緒に取材したEという者がいて・・・・

【長野県知事　阿部守一】

　どうすればいいのか、気づきがあったら教えてくれますか。

○　Eさん

　そうですね、長野県民のエシカル認知度100%を目指してマップをつくったという記憶があるのですが、エシカルという言葉をただ知っても仕方ない気がしていて、ＳＤＧｓバッチをつけていても仕方がないように・・・

【長野県知事　阿部守一】

　そうですね。新聞で認知度が何%と掲載されると県の職員も意識してしまう。

　県政モニターにいろいろなアンケート調査をしていますが、「これ知っていますか、知ってませんか」ということを聞くのはやめましょうと言っています。

　知っているだけでは仕方ないでしょ、「あなたは行動していますか」とか、「あなたはどうすればこういう行動をしたくなりますか」などを聞かなければ意味がないと思っています。

○　Eさん

　私は、Cさんと一緒に古着屋をやっていますが、古着を売ることで、「これ環境にいいですよね」とは言いたくなくて、何か、古着を買って着るという、ちょっと楽しい行為が気づいたらいい方向につながっていることがいい気がしていて、県民も気持ちよく広まっていくと思います。

【長野県知事　阿部守一】

　エシカルだなとか、地球に優しいとかを言いすぎるのは受けとめにくいですか。

○　Eさん

　そうですね、それも一つの方法だと思いますね。

【長野県知事　阿部守一】
　でも知らず知らずのうちにそういういい活動につながるみたいな感じですね。
　Bさんの発表は、今の話とも関連するのですが、話合いだけで終わる会議なんて意味があるのかという話を最も共感して聞いていました。Bさんから見て、世の中は行動しないで議論ばかりしていることが結構多いと思いますが、どうすれば一人一人が会議だけで終わらずに行動するようになりますか。

○　Bさん
　そこはまだすごく難しいところだと思っているのですが、今のところだと、私は進めちゃうというのが一番早いかなと思っています。

【長野県知事　阿部守一】
　進めちゃう、とにかくやっちゃえということですか。

○　Bさん
　はい、でもそれは大学生の考えかもしれないですけれども。

【長野県知事　阿部守一】
　いやいや、そんなことはないです。

○　Bさん
　高校のときに参加した「中野市若者会議」を中野市役所の方や、信州中野商工会議所の方や、地域の大人たちに手伝ってもらったのですが、大人たちの意見が混ざると、どうしても実現可能性というところが大きなポイントになってきて、どうしてもやろうというところで躊躇しちゃっていることがありました。

【長野県知事　阿部守一】
　そうですね。それは耳が痛いです。

○　Bさん
　非常に難しいところですが、もう進めちゃうというのが個人的にはいいのではないかと思います。

【長野県知事　阿部守一】
　私も進めちゃうのがいいと思いますが、行政が進めた結果として成果が上がらなかったら、住民としてはそれは進めたんだから仕方がない、やらないよりチャレンジする行政の方がいい、と思うか、実現の可能性を考えずに進めるなんて、とんでもない行政だ、と思うか、どちらでしょうか。

○　Bさん
　そうですね、行政がやるというのは、行政の力を借りるだけであって、多分、やる主体的な人たちは住民であるべきだと思うので、やはりそこは住民全員の意思が固まった段階でやるというのが一番だと思います。

【長野県知事　阿部守一】
　今日の夕方の復興会議でも、そういう話だといいかもしれないので、ありがとうございます。
　あとCさんは、まず動機というか目的を知りたいのですが、この古着屋トライアングルというのは、何を目的としているの？

○　Cさん
　服を循環させることが目的です。今、新しい服は大量に生産されているじゃないですか。それはあまり必要じゃないかなという気がしているからです。

【長野県知事　阿部守一】
　例えば、せっかく使えるものがあるのに使っていない、ということですか。

○　Cさん
　昔のものを寄付していただくようになって、本当にいいものがたくさんあるんだなということを知ったんですが、それならもっと昔の服を着たらいいじゃんみたいに思っていて・・・

【長野県知事　阿部守一】
　それは、いわゆるもったいないという感覚ですか、どういう感覚ですか。

○　Cさん

　もったいないというわけではないのですが、何か今のファストファッションとかの物よりも、昔の物ってすごくきちんとつくられていて、やはりバブルの時代を過ごされてきた人って、お金もしっかりかけているじゃないですか。

【長野県知事　阿部守一】

　（バブルの時代を）過ごされてきました、我々。

○　Cさん

　なので、そういうものが、デザインも一周回っていいみたいな、ちょうどそのタイミングだったりして・・・・

【長野県知事　阿部守一】

　結構、昔の服もいいんじゃないと、そういう感じもあるということですか。

○　Cさん

　今日着ている服もいただいた服ですが、昔の服がもっと着られるようになったら、少しでもいいことがあるんじゃないのかなと思って。

【長野県知事　阿部守一】

　経営者としては、次、どの様な展開を考えていますか。

○　Cさん

　今、長野市の権堂でお店を開いていますが、何か社会的にインパクトは小さいように思っていて。寄付していただけるのは、学生というステータスがすごくメリットがあるやり方だと思うので、全国の学生が同じように寄付を受けて売るということを多くの場所で行うようになったら、新しく生産される時のコストや、環境に与える負荷なども、もしかしたら減るかもしれないですし、廃棄されていた服も、また新しい経済価値がつくというようになったら・・・・

【長野県知事　阿部守一】
　ゼロカーボン宣言を実現する上で協力してもらいたいのは、県立大学生にもいろいろと広げていただきたいということです。ちなみに採算は取れていますか。

○　Cさん
　取れています。

【長野県知事　阿部守一】
　取れてるの！

○　Cさん
　仕入れがゼロなので・・・

【長野県知事　阿部守一】
　なるほど、仕入れゼロですね、場所代はどうしていますか。

○　Cさん
　場所代も一応。ただ人件費というところで見るとなかなか難しいことがあって、そこも細かく計算すれば難しいのかなという。

【長野県知事　阿部守一】
　それは先生方と相談して、いいビジネルモデルに仕上げてくれると活動が広げられると思います。よろしくお願いします。ありがとうございました。
　それからDさんの場合は農業を愛するという、すばらしい、これから日本や世界にとっても重要だと思うので、ぜひ農業を広げていってもらいたい。
　私は農業で人を元気に、人の力を借りて農業を元気にと、その双方向性が実は大事だなと思います。そうしないと多分、変動的な貢献だと長続きしない、いい関係ができないので、おっしゃっていただいたような関係性がすごく重要だと思うのですが、実際やっていて、順調に進みそうな感じですか。課題とか、これ困っているんだということ、何かありますか。

○　Dさん
　課題だらけです。

【長野県知事　阿部守一】
　課題だらけ・・・

○　Dさん
　やっぱり農業の世界というのは、農村と地域のコミュニティーと深くつながっているので、そう簡単に外部の人を受け入れないという姿勢があります。
　実際、農業はもう廃れていくからどんどん入っていって大丈夫だと思っていたのですが、そこには文化とか、その人たちの今までつくってきたものがあるので、それを私は受け入れなければいけないし、それは今までやってきたことを否定するところからではなくて、今までやってきたことを肯定するところからスタートしないといけないということはあります。

【長野県知事　阿部守一】
　すごく深い話をしてもらっていますが、実際に農業に関わっていこうと思っている人たちは、今、話していただいたことはみんなも同様に考えていて、地域の人たちとしっかりコミュニケーションを取って、文化とか伝統も受け継ぎながら頑張ろうと、みんなそういう感じですか、それともそうじゃないか、どんな感じですか。

○　Dさん
　なかなかそれは難しいところはありますし、それをやることによって自分が傷つくこともありますが、それ以上に、私は何かそこに向き合いたいなと、逃げたくはないなというところです。

【長野県知事　阿部守一】
　すごい決意、頑張ってください。私ばかり質問していますが、話したいことはありますか。

○　Gさん
　金田一学長のあいさつにもありましたが、時間軸も考えた中で、どういう役割を担っ

てもらいたいと思って、この４年制の大学にしたんですか。

【長野県知事　阿部守一】

私は大学の役割は大きく２つあると思っていて、１つは皆さんのような学生を育てていく、皆さんの夢を実現できるようにしていく、あるいは自分で道を切り開いていくことができるようにしていく。

それは大学だけではできないけれども、物事をはじめるきっかけとかチャンスをつくるといった役割として考えています。

もう一つは、長野県にはそもそも大学が少ないということがあります。私は県知事の立場として、大学は学生の教育もあるけれども、実は地域の発展にとって一番大きな役割を果たしていくと思っていて、そういう意味で、ソーシャル・イノベーション創出センターをつくってもらったりして、この大学は教育の場であると同時に、地域とつながって地域を発展させていく、多分、古着屋みたいなことをやってもらっているのも、大学をつくった一つの大きな意義であると思っています。

そういう意味で、学生が本当に学んでもらえる場であると同時に地域が元気になる、地域が発展していく基本、核となるものとして大学を考えています。

開学したばかりなので２年生までしかおりませんが、この県立大学の取り組みも始まったばかりなので、その評価はまだ十分できないと思っていますけれども、金田一学長といろいろ話した中で、我々が当初、構想していたとおりに、大学は成長しつつあると思っています。

県立大学の学生の皆さんとこの様に対話するのは初めての機会なので、皆さんそれぞれがよかったなと、そして、10年後、20年後、皆さんがここを巣立って社会で活躍している中で大学時代を振り返った時に、この大学が本当に意義があったと思ってもらえるか、あるいは10年後、20年後、地域、あるいは長野県全体から見て、長野県立大学をあの時につくってよかったなと多くの皆さんに感じてもらうことが重要だろうと思っています。それが私の感覚です。

４人の皆さん、ありがとうございました。

【進行役：高等教育振興課　企画幹兼課長補佐　新井隆司】

それでは後半の４名の皆様から発表いただきたいと思います。

Fさん、お願いします。

○　Fさん

グローバルマネジメント学科の２年のFです。よろしくお願いします。

私はこの夏に支援タイプの海外ボランティアに行ってきたので、その話と、フィリピンでの経験と、そこで学び得た持続性についてお話させていただきたいと思います。

まず支援タイプというのは、ケアリングフォーザフューチャーファンデーション（ＣＦＦ）というものの略ですけれども、フィリピンとマレーシアとミャンマーの３カ国で海外ボランティア事業を展開しているＮＰＯ法人の活動です。その内容は、虐待や貧困や、あと片親などにより、親元にいられなくなったストリートチルドレンを子供の家というところで受け入れて育てていくことです。

私が行ったボランティアは、子供の家の施設整備や修繕などで、私は道路をつくったり、土を掘ってセメントをつくることでした。また、毎晩、８時からのセミナーを通して、自分の将来など考えていることをシェアして、自分を見つめ直すということも行いました。

子供の家は、すごくきれいに整備されていて、ほかにバスケット場や、小さい遊具があるなど、子供が過ごしやすく、育ちやすい状況でしたが、ミニスタディツアーでスモーキーマウンテンという、マニラ首都圏から大量のごみが集められて山になっている所については、家が川の近くにあって、川の水位が少しでも上がったらすぐつぶれてしまうような家がいっぱいありました。また、スラム街では、はだしで歩き回っている子供や、ごみ拾いなどごみの分別で、生計を立てている人がいっぱいいました。

学生として貧困解決のために何か力になりたいと思い海外ボランティアに行ったのですが、スラム街でのボランティアではなく、安全性の高い子供の家でのボランティアになったので、自分はこれをやっていていいのか、自分は何をしにきたんだという葛藤の中、12日間のボランティア活動を過ごしていました。

その葛藤の中でこの様な場所に持続する、持続性というのがすごく大事だなと思いました。

家がないからこういう家をつくるというのでは簡素すぎて、すぐつぶれてしまうかもしれないし、家をつくるなら何世代も住めて、頑丈なものをつくるのが大事であり、そういった持続性が重要であるということを学びました。

日本に帰ってきて、持続性について何ができるのか、やりたいのかをすごく考えたのですが、なかなか思いつきませんでした。

そんな中、長野県立大学のＳＤＧｓ推進制度や、長野県の気候非常事態宣言について、個人や、身近で何ができるのか、何か変わったのかを改めて考えた時に、大学からペッ

トボトルをなくしたいという思いになりました。

フェアトレードで仕入れたコーヒー、紅茶、ハーブティ、ナチュラルウォーターをジュースディスペンサーに入れ、それを自分の水筒に補充して飲むことや、飲み物の原産地などに興味を持ってもらうことで水筒利用者が増え、だんだんペットボトルを買わない方にシフトチェンジし、ゆくゆくはペットボトルがなくなっていくのではないかと思っています。

この取り組みが長野県立大学で行うことができたら、県内の公立大学においても、ぜひ取り組んでいただきたいと思っています。以上になります。ありがとうございました。

【進行役：高等教育振興課　企画幹兼課長補佐　新井隆司】

F さん、ありがとうございました。

続いて、Gさん、お願いします。

○ Gさん

Gと申します。よろしくお願いします。私は災害ボランティアとかに行った経験をしゃべってくださいといわれたので、しゃべります。

と言うのは、ボランティアに行ったことを誇示するものでもないからです。

私は宮城県仙台市出身で、中学のときに東日本大震災で被災しました。私の家は壁がはがれたり、家の中がぐじゃぐじゃになりましたし、災害に対する恐怖心もありましたが、他の被災された方々は津波で家が流されたり、親族を亡くされたり、友だちにもそういう状況の人がたくさんいました。その人たちと比べると幸いにも、私の被災は軽かったという状況でした。

そのため、今回の台風第19号災害には、行動せずにはいられませんでした。

ボランティアに参加しようとする人はたくさんいるとは思いますが、何をしていいのか、経験がないだとか、もしかしたら、それが偽善行為に思われるかもしれないとか、いろいろな葛藤があると思うのですが、私はそのような葛藤がありませんでした。

多分、今回の災害が自分事と感じたからだと思います。

自分事というのは、これからの未来を考える上でものすごく大きなキーワードだと思っていて、知事が2050年にカーボン排出ゼロを目指すと言われていますが、一方的に行政のほうから目標を出して押しつける形になってしまっては、仮に削減の目標に達せなかった場合、目標達成のために、何かお得意の数字の操作が行われるとか・・・また、その分どこかに負担が行くと思うので、本気で取り組むときには、取り組む当事者がど

れだけその問題を自分事にできるかということが重要だと、今回のボランティア活動を経験し感じました。

また、大学ではボランティア活動のため欠席した授業が公欠扱いになっていませんでした。

出席日数が３分の２以上でないと単位がもらえません。活動のために欠席した授業が英語とかの科目だったら卒業要件になってしまい、ボランティア活動に躊躇してしまうことがあったので、公欠として認めてもらうように署名活動を行う等、もっと多くの人がボランティア活動に参加できるように取り組みました。

この取り組みに２日、３日かかったため、その間はボランティアに参加できないもどかしさがありましたし、大学生は大学で勉強することが本分なのでボランティア参加は認めないとの意見もある中で、私は勉強しようと思えばいつでもできる、災害の今、この時に勉強の話をする場合なのかなどの疑問についていろいろ悩みました。

【進行役：高等教育振興課　企画幹兼課長補佐　新井隆司】

Gさん、ありがとうございました。続いてHさん、お願いします。

○ Hさん

グローバルマネジメント学科のHです。今日はよろしくお願いします。

今日、私がお話をするのは、この長野県立大学に入る前と今、入ったことで私がどう変わっていったのかということ、そして、今、私はどういうことを考えているのかについてお話したいと思います。

長野県立大学に入学する前は、英語をやりたいとか、部活での部長経験からリーダー的なことをやりたいとか、地域を大事にしてコミュニティに関連したことをやっていきたいというようなぼんやりとしたことしか考えていませんでした。

大学に入ってからも自分自身のやりたいことや、自分の強みとか特長も全然わかっていなくて、中でも、自分のできないことに挑戦しても、できなくて気を落としたり、現実とのギャップを感じることが多くて、自分の中で葛藤することがたくさんありました。

私が現在に至るまでに、この大学に入って影響を受けてきたことについて話します。

１番目は、今年の６月にアメリカに留学をさせていただき、日本とアメリカとのギャップや、常識の違いなど、いろいろなことを学べる貴重な経験となり、本当に成長することができたこと、また、サークルなど授業以外でも学ぶことが多く、今、５つのサークルに入っていますが、どうやって人をマネジメントしていけばいいのか、またサーク

ル長としてもみんなをどの様にリードしていければいいのかなど学ぶことが多くて大変ですが、楽しく取り組んでいます。

そのため今は、自分の強みとか弱み、いい意味で自分は何ができないのかということを理解できています。

留学に行って、自分の個性や自分ができないことをほかの人に発信することで、自分を知る自己理解ができるようになってきました。

２番目は、今まで常識だと思っていたことや、一般的なことに疑問を持ち、一から考え直すような生活をするようになったことです。例えば、ＳＤＧｓは社会の中で大切といわれていますが、本当に大切なのか、ちゃんと一から理解する必要があると思いいろいろ研究していきたいと考えています。

また、他に今考えているのは、お金や、地位や、名誉は何が目的、私にはちょっと意味がわからない、本当に必要なのかと思っていて、お金が重視されることはわかっていますが、今の社会では本当に必要なことなのか、ちょっと理解できていません。

いろいろな経験や、この大学を通じて、私の考えと社会との考えのギャップを知っていく必要があると思っています。

大切なのはお金じゃなくて、人間関係の豊かさなのではないかと私は思っています。

３番目はＳＤＧｓへのアクションです。ＳＤＧｓについていろいろ議論されていますが、議論で止まってしまっているということがあるし、議論するだけで何もアクションを起こしてないということに疑問を持っています。

自分や自分のやりたいことが留学を通して、理解することができたので、将来的に、キャンプをしながら世界旅行などに行ってみたいと、最近、いろいろ計画をしています。

大学に入学したことで、ＳＤＧｓについても、議論ばかりで何もしていない、実際、私達自身も何もしていないし、今、動かなければ５年後、10年後にいざ大変となった時に後悔するのは自分自身だし、大切な人や大事な人、友だちなどが死んでしまった時、後悔したり、何も覚えていないのはもう自業自得だなということなどをＳＮＳなどを通して話すようになりました。

最後に、阿部知事が８年前に長野県立大学をつくるぞと決意されなかったら、このような経験や活動ができてなかったし、友だちとも出会えることができませんでした。

大学をつくっていただいたことに感謝するとともに、本当にこの大学に入ってよかったと、心から思っています。以上です。

【進行役：高等教育振興課　企画幹兼課長補佐　新井隆司】

Hさん、ありがとうございました。

それでは最後の発表であります。Iさん、お願いします。

○ Iさん

よろしくお願いします。長野県立大学グローバルマネジメント学部起業家コース２年のIです。

私からは若者の未来ということをテーマに話させてもらいます。

今、インターン２つと、県立長野図書館で学生コーディネーターとして活動しています。出身はGさんと同じで宮城県です。

今日のメイントピックとして、地域コミュニティにおける長野の若者の今とこれからについて話したいと思います。

今回は地域コミュニティーを長野に限定し、若者を大学生、高校生、そして20代前半の人に絞って話していきたいと思います。

最初に私がインターンとして一番大きく関わっている、市立長野高校の探求学習について話させていただきます。

先ほどの発表の中で、会議をしていても始まらないという言葉が私の中で響いているのですが、市立長野高校では、自分のやりたいプランをどうやってアクションに変えていくかという授業のコーディネートをＮＰＯ法人青春基地でインターンをしながら行っています。先生や生徒だけでなく、そこに大学生や、地域の大人、社会の大人、専門職の方々を巻き込んでいくことによって、教育という狭い世界を広げたりそれをオープンにしていく、そして、そこに大学生が関わっていくことで、高校と大学の接続、そして学びにもっとわくわくがあるんだということを伝えています。

今日の参加者の中にも実際に、私たちの授業に足を運んできてくれた人、ちょっと手を上げてもらっていいですか・・・。ありがとうございます。そんな形で、さまざまな大学生を巻き込みながら活動しています。

次に私が大きく関わっているものではないのですが、高校生と大学生が関わっている活動として、「高・大生災害情報共有会議」というものが行われています。

これは長野県ＮＰＯセンターのユースビッチで活動している高校生などの若者の中でも、ユースリスという高校生たちが中心となって行っています。そこにも長野県立大学の学生で参加した方、ちょっと手を上げてもらっていいですか、ありがとうございます。こんな感じで、さまざまな大学生が関わっています。

次に「わくわく信州中野100人会議」というのを、話していきたいと思います。

この会議はどうやったら地域が豊かになっていくかということを、地域の大人、大学生、高校生、さまざまな方を巻き込んで話し合う会議です。こちらも参加していただいた学生さんがいたら挙手をお願いします・・・。ありがとうございます。

このような活動において、高校と大学生の間にＮＰＯや大学法人等の非営利団体が入っていて、やはり若者をつなげるには地域のコーディネーターの役目を果たす人や機関が必要だと強く考えています。

ぜひ、コーディネーターを支える仕組みを行政に取り組んでいただきたいと思っています。

コーディネーターを支援し、そして評価する、これはどちらも必要なことだと考えていて、特にコーディネーターは大人だけでなく大学生や高校生もなっていて、彼らはそれぞれの分野でしか、その枠にはまった形でしか評価されないということが多い状況です。

他に、理事長、学長裁量単位というものを提案させていただきます。

今日発表された方々からも「理事長の裁量経費が、とても役に立っている」という話がありましたが、私は教育分野に関わっているので、お金は引っぱってこようと思えばどこからでも引っぱることはできるのですが、単位は大学からしかもらえません。

先ほど知事から大学が果たす役割として、アカデミックなことを学ぶという部分と、地域において果たす役割について語っていただいたのですが、やはり学ぶだけでなく、地域でいろいろ活動している人も、大学の中ですごく大きな役割を果たしていると思っているので、そうした活動に対して単位を出すことを考えていただければ非常にありがたいです。

単位は大学を卒業するという目的だけでなく、成績に関わります。成績に関わると奨学金や、授業料免除などに関わってくるので、実は単位というのはすごく大きな役割を果たしているのです。よろしくお願いします。

【進行役：高等教育振興課　企画幹兼課長補佐　新井隆司】

４名の皆さん、ありがとうございました。

では、知事から、質問等がありましたらお願いしたいと思います。

【長野県知事　阿部守一】

どうもありがとうございました。

Fさんから、持続性が大事だというお話しがありましたが、海外でボランティアを経験されてきて、日本の子どもたちに活かせるものはありますか。

日本でも、貧困の子どもたちや、学校にちゃんといけない子供たちなど、いろいろな課題を抱えている子どもがいる中で、海外の子どもたちと接してきて、日本に戻って感じることや、日本の子どもたちにもっとこの様なことができるのではといった気づきはありますか。

○ Fさん

底辺の子どもの家では、遊びなどを重要視していて、学校にはもちろん行きますが、お昼ぐらいにはもう帰ってきて、遊具で遊んだり、ダンスをしたりとか、自分がやりたいことができる自由な時間がありました。日本だと何かものすごく縛られているというか、学校に行って、塾に行って、勉強してという状況で、もっと自由なことができる環境だったらいいなと思いました。

【長野県知事　阿部守一】

私もそう思いますが、皆さんは小学校、中学校、高校で勉強してきたわけですよね。

最近、長野県の教育委員会に、高校は一体、何のためにあるのか投げかけているのですが、高校は何のためにあるのか、大学に入るため、何のために高校へ行くの、ちょっと教えてくれますか。

唐突で変な質問で申しわけありませんが、長野県はこれから高校改革をやっていこうとしています。そこで入試のあり方も変えなければいけないのではないかと教育委員会に聞いています。そもそも高校生の数が減っているから、高校の統廃合をしていかなければいけないと。

地域の皆さんからすると、今まであった高校がなくなってしまったら困るということもあるし、逆に、今までの高校で例えばＩＣＴを使った教育などをやれるのと言ったらやれないし、高校は義務教育ではありませんので、行きたくない人はいかなくてもいいし、私は教育委員会に高校は何のためにあるのかを聞いているのですが、明確な回答が返ってこないので困っています。皆さんは高校は何だと思っていますか、高校は何のために行っていましたか。私にヒントをください。

○ Gさん

社会の擬似体験

【長野県知事　阿部守一】
　社会の疑似体験・・・なるほど。

○　Gさん
　部活に力を入れていたので、目上の人への敬意や、何か自分の中で目標を設定してそれを達成するため、例えば私は野球部に入っていたので、レギュラーを取るために、趣味は捨てようとか、そういうプランをどう立てて、それを実行していくという努力プロセス、どの様に進めていくか考えることは価値があったと思います。

【長野県知事　阿部守一】
　でもそれであれば、先ほど話のありました単位をきちんと取らなくても、もっとカリキュラム以外の活動に力を入れれば高校はＯＫという話にならないでしょうか。もちろん、大学に行きたい人はきちんと勉強する必要があるかもしれませんが、高校の目的としては、やはり部活みたいなところを充実してれば、それで何とかなるのではないでしょうか。

○　Gさん
　その一面だけ切り取ればそうなるかもしれないですが、義務教育までの中でどれだけいろいろなことに触れられるかということで、更にどこかで見つけた自分の興味関心の種があったなら、そこをどう調整していくかということに高校の時間を充てられれば、それはいいことだと思います。

【長野県知事　阿部守一】
　そうですね、でも今の高校は、そうなっていません。
　先ほどいみじくもGさんが、大学で授業を受けているのがもどかしくて、ボランティアに行かなければいけないんじゃないかと思ったのと同じようなことが高校生活でもあり得るような気がするのですが、ちょっとこの話をしていると２時間ぐらいかかってしまうのでこの辺にしておきます。
　先ほどＳＤＧｓというのは何でしょうかという話をしてくれたじゃないですか、そのようなことについて、大学生の皆さんは常に考えてもらうことが私は大事だと思っていて、最近、県庁でよく言うのは、これ何のためにやっているのでしょうかと、高校は何

のためにあるのかなどを聞いていますが、そもそもこの仕事は何の目的があるのか、例えば水道の広域化について、水道を広域化すればコストが下がるかもしれないが、そもそも水道の広域化は何が一番の目的なのとかと聞いたりしています。

私が学生の時代は探究的な学びなどについては全然言われなかったので、とりあえず先生が言っていることや、教科書に書いてあることを覚えて試験のときにそれを吐き出せば何とか成績が取れたという感じでしたし、結局、そのやり方が何に役立っているのかといったら、正直、自分でもよくわかりません。

それよりもこんな体験をしたらいいのではとか、こうやって勉強ってするものだよとか、ここはこうやって調べればいいんじゃないのとか、その様なやり方を教えてもらえれば本当はよかったなと感じていますが、でも最近は、高校も大学も随分変わってきていると感じています。

皆さんは、私が受けた教育に比べると、多分、今の時代として望ましい形の教育を、大分受けられるようになってきているものと思っています。

ですがまだまだ、私は足りないと思っていて、やっぱり問題を設定していく能力が重要だし、あるいはコーディネートしていく能力、そういう能力をもっともっと、高校や大学で身につけられるようにしていかなければいけないと漠然と思っています。高校改革の話は、よく考えなければいけないと思うので、これで終わりにして、ちょっと質問します。

Ｇさんの台風19号の話は、自分事というキーワードが非常に重要だと私も思います。自分で行動しようとした時に、例えば大学のルールと自分がやりたいことが矛盾していたわけで、世の中ではいつもそういう矛盾の塊だと思います。こっちが重要だと思うけれども、でも世の中はこっちじゃないほうが重要だとか、こっちを行動しようと思うけれども、今はそれはやめなさいと言われたりということは山ほどあって、だけど、それは先ほども言ったように諦めてはいけない、一個一個変えていかなければいけないと思いますが、大学の皆さんと話をして、変えられましたか。

○ Gさん

金田一学長は私たちの言葉にとても寄り添って対応していただき、私たちの意見を大学側に話していただいたのでボランティア活動による授業の欠席は公欠として認められました。

ただし、そこに至るまでにボランティアに行きたいが、公欠扱いになりませんかという相談に対し、大学からは公欠は認められないというメールを全員に通知してしまった

ため、ボランティア活動に参加しにくい環境ができてしまった。私はこの点に関して、すごく問題があると思っていて、学生がやりたいこと、こういう新しいことをやりたいと思った時に、先に大人ができない理由を探してしまう。今あるルールは、これまでのルールでしかないので、これからの社会は全く別の方向に向かっていかなければいけないと考えています。今あるルールの枠組みの中で考えようとしていること自体が、ものすごく問題だと思っています。

【長野県知事　阿部守一】

なるほど、それはいい指摘です。我々も反省しなければいけないと思いますが、大人たちはこれまで今のルールや仕組みでやってきた中で、ある意味成功体験を持っているのは事実です。ただしそれは変えなければいけないことがいっぱいあると思います。

そして変えるために、めげる気持になることがあるかもしれないけれど、ぜひめげずにやってもらいたいと思います。ただ、その時に、どうやって自分の思いに共感する人たちを増やしていくかということが多分重要なので、今回の実践を通じて得られたこともあると思うので、これからもいろいろな行動をしていってもらえるとありがたいと思いますので、よろしくお願いします。

それからHさんは、自分が大学で変化したという話をしてもらって、私も大学をつくってよかったと思います。

お金が必要なのかということをいろいろ自問自答されているところがありましたが、価値観について世の中全体も変わりつつあると思います。

ただ、今までの日本は、戦後の焼け野原から立ち上がって、とにかく物の豊かさをずっと追い求めてきて、バブルで頂点に達し、そこから後、方向性を見出せないまま今にきてしまっているのではないかというのが私の感覚です。ただ、どういう社会にしていきたいかということは我々も考えなければいけないし、皆さんが、若い世代が、新しい感性でしっかり考えていってもらいたいと私は思っています。

長野県の総合計画の基本目標は「確かな暮らしが営まれる美しい信州」です。確かな暮らしというのは、私が10年前に、最初の選挙に出た時のスローガンが「ともに支える確かな暮らし、信州に築く県民主権」です。それ以降、「確かな暮らし」をずっと県の総合計画に使わせてもらっていて、今回の災害などが起きると、ただ当たり前に暮らせる、普通に家族と語り合える、地域の皆さんといろいろな活動ができるということ自体に、私はすごく価値があるのではないかと、改めて思いました。

もちろんお金持ちになったり、出世するということに価値を見出す人たちもいるかも

しれませんが、お金がいっぱいあっても孤独だったら、多分つまらない人生だと思いますし、私は知事ですがこの仕事はやめたらただの人なので、そういう意味では、それこそ持続性がある価値というものをしっかり見出していかなければいけないし、人からの評価、お金持ちだとか地位が高いとかというのは、結局、自分の内面と向き合っているのではなくて、ただ単に人との比較や人からの評価になってしまっている。そういう意味では、何かもっと自分の内面的な幸せが感じられることは、一体何なのかなということを考えていったほうがいいと私自身は思っています。

いろいろなところで長野県はどういうところがいいですかと聞かれ、長野県はお金で換算できないすばらしい価値がいっぱいあるところですと答えています。

どこかの田んぼのあぜ道に座って、北アルプスに沈む夕日を眺めるだけで私は幸せを感じます。何もない、おいしいものを食べているわけでもないし、お金が山ほどあるわけでもないけれども、何か感じるわけです。幸せを。

だから、そういうお金に換算できない価値が長野県にはいっぱいあると私は思っていますし、そういうものを放っておくと、多分、農業についてもいえることですが、どんどん失われつつあるので、そういうものをぜひ大切にしていかなければいけないと思っています。

ぜひ、Ｈさんにはこれからも成長し続けていってもらいたいと思います。

○ Hさん

何かお金に対しての私の視点、今まで、おっしゃったように豊かになるためだけに必死になって、今の大人の皆さんが、今の豊かな社会をつくってくださったと思っているのですが、今のお金の存在というのは、今まで手段だったものが、お金が目的になってしまっていると思っていて、稼ぐことや、お金を持っていることが評価が高いこと、偉いことや、名誉などもそうだと思うんですけれども、今の社会にも、お金の存在がそういう目的になっているのはちょっと違うと思うし、おっしゃったようにお金じゃない、お金に換算できない幸せというのは本当に確かにあるのに、気づけていないというのも、多分事実だと思うので、気づける機会や、気づけることができるようにしていくというのも、私たちがやらなければいけないことだと思っています。

【長野県知事　阿部守一】

ありがとうございます。ぜひ皆さんで、いっぱい気づきを持つ大学にしていってください、ありがとうございます。

あと、Iさんには、私、いろいろなところで会っているので、ポジティブだなといつも思って感心しています。

裁量単位の話は、金田一学長に相談して取り組んでもらいたいと思います。

先ほどの高校は何のためにあるのかということと関連するのですが、長野県は学びの県にしていきたいと思っています。

長野県はかつて教育県と言われていました。私は県知事として教育県再生といったことを考えた時期もありましたが、やはり長野県は学びが重要だと思っています。

学びの主語は「私」、一方、教育は「教える人」が主語になることから、やはり一人一人が主体的に学ぶ県にしていきたいと思い、県の総合計画には「学びの県づくり」ということを位置付けています。

そういう意味で、もっと自由でいいんじゃないかと、やりたい研究があったら、これをやるからこれとこの授業は何とかしてくれませんか、という様にある程度柔軟性があってもいいものと思いますということで、Iさんの応援演説をさせていただいて金田一学長にバトンタッチをしたいと思います。どうもありがとうございます。

【進行役：高等教育振興課　企画幹兼課長補佐　新井隆司】

皆さん、ありがとうございました。時間も限られているのですが、会場の皆さんから発表した方以外の方も含めて、何か知事に聞きたいこととかありましたら、どうぞ手を上げておっしゃってください。

○ Jさん

グローバルマネジメント学部の２年生のJと申します。

私は海外留学でスウェーデンに行き、そこで核廃棄物処理の最終処分地を見学した際に、核廃棄物自体の安全性確保のために廃棄物を何十万年も保管するという話を聞き、持続可能な社会をつくっていく上で、今起きている問題を何らかの形で、次の世代にバトンタッチしていかないといけない、原子力発電で得られた電力とかで産業とかが成長してきたと思いますが、その負の側面として廃棄物自体が残ってしまい、それを次の世代に渡していかないといけないという問題があると思いました。

今回の台風19号が来る時も、長野県は大丈夫だと楽観視していましたが、実際は長野県でも大きな被害を受ける事態となった中で、長野県ではＳＤＧｓや、気候非常事態宣言により2050年に向け脱炭素化や脱炭素社会に取り組み、達成し、その上で次の世代にどういったものを渡していきたいと考えていますか。

５　コメント

【長野県知事　阿部守一】

気候非常事態宣言は、今回県議会の皆さんが決議をされて、それを受ける形で私が宣言し、併せてゼロカーボン宣言を行い、2050年CO_2排出量実質ゼロを実現しましょうということで取り組んでいます。

私が非常事態宣言を行う必要があると思ったのは、先ほど、自分事という話をＧさんがおっしゃっていましたけれども、まず環境問題や、地球環境に関心が高い人とそうでない人の意識の格差があまりにも大きいものと思っていて、まず我々県職員も含めて、きちんと危機意識が共有されているのだろうかということから始まっています。

ただ、地球の平均気温の上昇を1.5度以内に収めようとしても、今のままCO_2を排出しているとおそらくあと10年経たないうちに越えてしまうのではないかと思っています。

そのような危機感をまずは当たり前に多くの人たちと共有しなければいけないと思い、宣言を出し、多くの人に気づきを持ってもらうところから始めなければいけないと考えました。

また、CO_2排出量実質ゼロは、行政だけで達成することは不可能です。行政だけで取り組んでも、あるいはいろいろな規制や、補助金を出しますとかといっても、それだけでは実質ゼロには全く届かないと思います。多くの人たちに気づきを持ってもらわなければいけない。いろいろな企業の皆さんも、個人の家庭での生活も変わっていただかなければ、変えていただかなければいけないと思っています。

どんなものを引き継いでいきたいのかとのご質問に対し、きちんとした答えにはなりませんが、私は責任ある立場として先送りはしたくないと思っています。よく公務員に対する批判には、担当者が交代すると変わってしまう、とりあえず自分がやっているときは何か当たり障りのないことだけをやる、というようなことが言われます。

一般企業だと問題を先送りすると、収益が得られなくなり倒産してしまうので、先送りは許されません。私が言うと問題かもしれませんが、政治とか行政の世界は、先送りしてしまおうと思えば逃げられないわけではないように思っています。

だから民主主義で国民主権でなければいけないわけです。お前さぼっているんじゃないかと監視するのは有権者であり国民です。例えば原発の問題、核の廃棄物はどう処理をするのかと、事務的にはいろいろやられていますが、いつまでに答えを出すのか、答えが出ないまま、だらだら時間だけ経ってしまっていいのかとみんな思うのではないでしょうか。私もそう思います。ただし思うけれども誰もあまり思ったことを言いません。

気候変動の問題でも、私ぐらいの世代だと、これまた私がこんなことを言うとよくな

いのですが、あと20年元気で、その後10年寝たきりで、計30年ぐらいは生きるかもしれませんが、その頃までは、まだもしかしたら大丈夫かなと、あと30年経ってやっと2050年だから、まだその頃は壊滅的な影響までに至ってないかもしれないと思っている人もいるかもしれません。だけど学生の皆さんの世代は、多分、避けて通れない、少なくとも科学者が確立的にこうなる可能性が高いと言っているようなことは、かなりの部分が具体化してくると思わなければいけません。思わなければいけませんが、何とか対応しなければいけない時に、やはり皆が行動してほしい。選挙で選ばれている人たちは、国民が何を期待しているかや、国民が何に不満を持っているかということには敏感です。敏感ですが、皆が政治を受けてないんじゃないかと、政治家、何をやっているんだと思っているということは、あまりそういうことを国民が本当に願ってないのではないかということかもしれません。

あるいは、本当は思っているけど口に出さない、行動しない、何か遠慮している、といったように、せっかく言う機会があるのに、あまりこんなことを言ってはいけないのではと遠慮していたら、結局、それは世の中を変えることにつながっていかないことになります。

私が気候非常事態宣言を出したのも、問題を先送りしないで皆さんと取り組んでいきたいという思いがあったからです。

先ほども言ったように価値観はどんどん変わってくる中で、私が理想とする社会は、皆さんがこれから見えている社会、あるいは目指そうとしている社会と、もしかしたら違っているかもしれませんが、「確かな暮らしが営まれる美しい信州」というのは、「日々の暮らしで希望が持てること」、「日々の暮らしで安心して暮らせること」、であり、美しいというのは自然環境が美しいということや、もう一つ、「美しい」に込めているのは、人の営みも美しいということ、額に汗して努力して頑張っている人たちの姿はやはり美しいと感じます。何かの目的を持って、例えばオリンピックで金メダルを取ろうという目標を立てて頑張っている姿も美しい。

そういう、美しいというのは情緒的、感情的な言葉なので、あまり行政の目標に掲げることは少ないと思いますが、私は何かロジカルなキーワードだけでは、未来は語れないと思っていますので、そういう意味では「確かな暮らしが営める美しい信州」ということを総合計画の目標にしていますし、今、言ったような社会をぜひ次の世代に引き継いでいきたいと思っています。

ただそれには、今ある課題をちゃんと解決していかなければいけないので、私もより頑張らなければいけないと思います。それからやはり他人事でなく自分事として行動し

ていくということが重要と考えます。

今の日本の社会はいろいろ課題があるとはいえ、表現の自由、言論の自由、集会結社の自由など、いろいろな自由が保障されているので、今こそ、保障されている権利というのは、一体、何のためにあるのか、そういう権利を使って、自分たちは一体どういう社会をつくっていけばいいのかを、しっかり考えてもらえるとうれしいです。

皆さんの、目指したい社会が、皆さんがイメージできない社会は絶対できないし、皆さんがどういう社会をつくっていきたいかということを具体的には政治家に託す、有権者として政治家に託し政治に反映させることは重要だと思いますし、もう一つは政治だけでは変えられないこともたくさんあるので、一人一人が主体的に、世の中を変えていく努力をしていくこと、その両面が必要だと思います。

【進行役：高等教育振興課　企画幹兼課長補佐　新井隆司】

ありがとうございました。まだお聞きしたいことはあるかもしれないのですが、聞けなかったことは同封のアンケートに書けるようになっていますので、そちらに書いて、後でお出しいただければと思います。

それでは長時間にわたりましてありがとうございました。知事、最後に何かありますでしょうか。

【長野県知事　阿部守一】

今日はありがとうございました。時間があまりなかったので消化不良のところもありますが、また金田一学長、呼んでください。

今度はもっといろいろな形で、ざっくばらんにお話をさせてもらえればありがたいと思います。

また台風19号災害からの復旧復興は皆さんにも力を貸してもらいたいと思いますし、ゼロカーボンについては、我々は本気で実現していく覚悟です。ぜひ皆さんにもそれぞれできることをしっかり考えてもらい、長野県立大学からゼロカーボン社会が始まっているというように取り組んでいただければありがたい。

今日、発表いただいた皆様方には改めて感謝を申し上げ、そして聞いていただいた皆さんにも心から御礼を申し上げて、私からの終わりの感謝のあいさつとしたいと思います。ありがとうございました。

６　閉会

【進行役：高等教育振興課　企画幹兼課長補佐　新井隆司】

　ありがとうございました。今日、発表の中でもＳＤＧｓという言葉、結構出てきたのですが、明後日の金曜日、県主催でＳＤＧｓフォーラムが長野市の芸術館でありますので、もし授業のない方、お友だちもお誘いあってご参加いただければと思います。

　それでは、最後に知事を囲んで記念撮影をしたいと思いますので、発表者以外の皆さんも前のほうに出ていただいて、一緒に写真を撮っていただければと思います。

【長野県知事　阿部守一】

　災害ボランティアは、今週末が一応区切りとなり、年内の活動は終えていこうということを、長野市のボランティアセンターが話されました。今週末、被災された皆様を応援しようという思いがある人は、ぜひボランティアに出かけてもらえればありがたいと思っていますので、よろしくお願いします。

（以上）